

発行所 化学工業日報社
本社 103-8485 東京都中央区日本橋浜町3-16-8
大阪支社 06-6232-0222
名古屋支社 052-238-3553
シンガポール支社 6324-9878
バンコク支社 2309-3620
上海支社 21-52730031
化日上海投資諮詢 21-32241052
化学工業日報社 2017
http://www.kagakukogyonippo.com/

化学工業日報

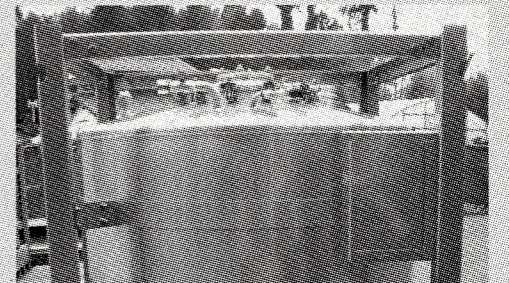
2017年(平成29年)
2月7日 火曜日

第23502号(日刊、土・日・祝日除く)

きょうのニュース

IBC事業展開強化へ
茨城に拠点一日陸

日陸は中型容器(IBC)の事業展開を加速する。さらなる品質向上や品質管理の高度化を目的に、茨城県常総市の提携企業工場内に4月にも新拠点を設置する。技術系社員を常駐させ、設計、製造、検収を効率化するほか、自社で定期検査を可能とする。ファインケミカルや化粧品、触媒などを対象にした独自の高性能IBCや小型ポータブルタンクのリース・レンタル、販売の拡大とともに顧客サービス充実につなげる。



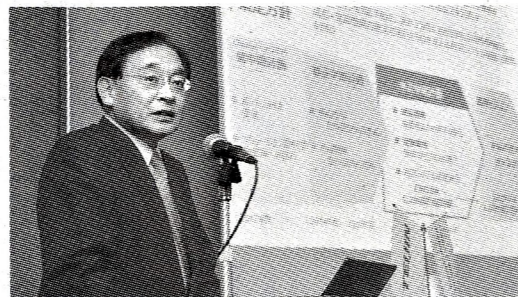
- 4 バイオ後続薬事業を加速-Meiji
6 レーザー照射で高速接着-ADEKA
7 日東紡が新中計、設備投資を大幅増額
8 CNT分散、より鮮明-三井化学分析
10 テールランプ成形機に力-日本製鋼所
12 国内クラッカー一次なる改革へ決断の年
9 遠心分離機特集

収益性と成長性を重視

帝人が新中計
マテリアルとヘルスケア柱
3年で3000億円投資

帝人は6日、2017年度から始まる新3カ年中期経営計画を発表した。鈴木純社長は「収益性と成長性の2つの指標を重視する」とし、19年度にROE(自己資本当期純利益率)10%以上、EBITDA(金利・税・減価償却費計上前利益)1200億円超の数字目標を掲げた。M&A(合併・買収)を含めた設備投資額は3000億円。事業ポートフォリオはマテリアルとヘルスケアを2本柱とし、それぞれで新規事業を立ち上げるとともに、そこにITを組み合わせることで収益体質を強化していく。(関連記事4面)

円超、ROE10%以上、投下資本利益率(ROI)8%以上。ROEは15年度に続き16年度も達成できる見込みで、引き続き維持していく。10年後のEBITDAの目標は、



「修正中期計画の時点」率を重視してきた。引き続くこの考えでやっていると、ROEなどの数字を見せつけた。

Table with 3 columns: Material Business, Health Care Business, and Investment Strategy. It details business areas like composite materials, pharmaceuticals, and IT, along with investment goals and resource allocation.

「修正中期計画の時点」率を重視してきた。引き続くこの考えでやっていると、ROEなどの数字を見せつけた。CSFが加わり、社員は日本と海外でおおよそ半数ずつになった。また、グローバル企業として海外展開を加速するうえで、世界に通用する指標を掲げる」とも付け加えた。

セルレンは、絹に含まれるたんぱく質のセルリンをバイオ・医療分野へは対心できない分野の開拓を狙う。すでに診断薬用酵素安定化剤で実績があり、主力の化粧品向けにも拡大傾向にあることから、新たな原料調達先獲得も視野に入れる。セルレンは1994年にアトピー改善の目的でセルリンをコーティングした合成繊維を開発し、セルリン事業を開始。その後、化粧品への展開も進め、化粧品メーカーの順だが、野の伸び率も高い。セルリンは1994年にアトピー改善の目的でセルリンをコーティングした合成繊維を開発し、セルリン事業を開始。その後、化粧品への展開も進め、化粧品メーカーの順だが、野の伸び率も高い。

医療機器参入促す

北海道では今年から医療機器の産業振興にも力を入れている。道内のモノづくりは自動車や航空宇宙、農業機械、建設機械はあったが、医療機器は「部品を製造するケースはあっても小規模で、研究者との接点もない」(北海道経産局)と、産業がほとんどない状態。医療機器は今後の成長が見込める有望分野のため、道内のモノづくり企業の医療機器分野への参入と事業拡大の促進を目指す組織として昨年11月に「北海道医療機器関連産業ネットワーク」が設立された。他地域の経産

下

バイオ・メディカル産業
新風起こせ北海道

20社程度集まれば上出来(経産局)との目論見を上回り、医療機器以外の製造業やシステム構築を手がけるIT企業など30社・機関が参画。同ネットワークでは年度末に向けてセミナーの開催を予定しているという。「道内のモノづくり企業には

モノづくりの技術に自信

CNTでも独自性
新材料として注目が高まっているセルロースナノファイバー(CNF)でも、北海道は独自の輝きをみせている。CNFはナノサイズのセルロースで、樹脂やゴ工(江別市)がこの「北大と草野作工はヒドロキシプロピルセルロースなどを培養時に添加することで、両親水性」のグリードを開発し、極性有機溶剤などへの分散を容易にした。製造法を含めCNFのメインストリー

超短波

が、2020年には新薬承認申請を始めるという挑戦的な開発計画を立てている。抗がん剤分野では後発組だが、25年までに売上規模300億円を目指す。その切り札となるのが、